

行政視察報告書

(愛媛県宇和島市・愛媛県新居浜市)

令和4年8月10日

鹿沼市議会会派 (親悠会)

1、行政視察日程について

期間・・・令和4年7月26日（火）～28日（木）

2、訪問都市と調査事項について

1) 愛媛県宇和島市 7月26日(火)16時00分～

「空き家対策について」について

- ① 空き家対策（解体）に関する補助制度について
- ② 空き家対策の課題について

2) 愛媛県新居浜市 7月27日（水）14時30分～

「笑顔甲子園について」

- ① 目的や開催の経緯について
- ② 笑顔甲子園の効果・成果について
- ③ 実行委員会方式に変更した経緯や成果について
- ④ 課題について

3、参加者 鹿沼市議会会派「親悠会」

横尾武男 関口正一 谷中恵子 市田登

1：愛媛県宇和島市の概要・地勢について

愛媛県の西南部に位置しており、北は西予市に、東は鬼北町・松野町・南は愛南町・高知県宿毛市・四万十市に接している。西は宇和海に面し、入り江と半島が複雑に交差した典型的なリアス式海岸が続く、4つの有人島と多くの無人島がある。東側の鬼ヶ城連峰は、海まで迫る急峻差を備え、起伏の多い複雑な地形をしている。平成17年に、宇和島市・吉田町・三間町・津島町が合併し、新しい宇和島市が誕生した。

① 空き家対策（解体）に関する補助制度について

宇和島市の空き家率は平成30年の調査では、愛媛県内11市では、5番目に高く、住宅総数39,150戸に対し8,350戸の空き家があり、空き家率は21.6%になる。こうした状況の中で、宇和島市では平成28年度より老朽危険空き家除却補助制度を立ち上げた。補助条件として、倒壊により当該空き家が存する敷地と沿道との境界線を超え、避難等に支障を来すおそれがあるもの、又は倒壊すれば当該空き家が存する敷地と隣地との境界線を超え、隣地に悪影響を及ぼす恐れがあるもの、と条件をつけている。実績として、平成28年から令和3年まで、83件実施している。又、市の負担として

補助対象費用の五分の四以内、且つ上限80万円としている。

② 空き家対策の課題について

市民の方からの苦情要望（情報提供）は、毎年概ね100件程度。令和3年度は105件の情報提供があり、うち57件が未解決。未解決の主な要件として、所有者等の連絡が取れない事や、所有者等に資金力や解決の意欲がない。又、相続費用がかかることや法定相続人が存在しないことや更地にすると、固定資産税の住宅用地特例がなくなるなどの課題を抱えている。

2：愛媛県新居浜市の概要・地勢について

新居浜市は、四国の瀬戸内海側のほぼ中央に位置する人口約12万人の都市で、元禄4年（1691年）の別子銅山開坑によって繁栄し、沿岸地帯は工場群が帯状に形成され四国屈指の臨海工業都市となっていて、平成15年4月1日、別子銅山という文化歴史的背景を共有した別子山村と合併した。人口は、愛媛県第二の規模となる約23万人を有する。四国三大祭りの新居浜太鼓祭り、別子銅山関連の産業遺産群が知られる。

「笑顔甲子園について」

① 目的や開催の経緯について

新居浜市に人と人をつなぐ「笑顔」と「元気」を生み出し、地域に笑いの文化を根付かせ、若い人から高齢者まで、すべての世代の「笑顔輝くまちづくり」を推進する目的。又、開催の経緯については、高校生達のパワーで愛媛から「笑顔」と「元気」「被災地に笑顔を・・・」お届けしていきたい思いで、発足した。

② 笑顔甲子園の効果・成果について

笑顔甲子園に出場したいと考えている中高生との絆が出来たことや、プロで活躍している人を呼ぶことで、市民だけでなく、市外からも開催を楽しみに来場してくれるなど、交流人口も増えている。

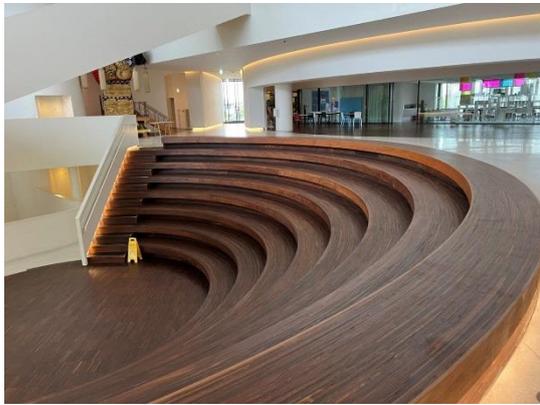
③ 実行委員会方式に変更した経緯や成果について

新居浜市第五次長期総合計画で、平成23年度から令和2年度まで、の期間が満了した事や新居浜市が毎年500万円程度の負担になることも説明の中で感じ取れた。成果として、多くの団体・企業・市民が関わる、市内一体となったイベントづくりとすることで、本当の意味での新居浜市のイベントに成長した。又、機動力が上がり、課題等に柔軟に対応ができています。さらにそれぞれの団体が持ってい

る情報やノウハウを活かし、より効果的なイベントの運営につながっている。

④ 課題について

令和4年度予算編成で、市の財政が厳しい中、負担割合の見直しが必要になったことや市内企業や市民の広がり、事業の認知について、一定の効果があったものの、限界がきている。さらに新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度、令和3年度は開催できず、学校との繋がりが希薄化していることなどが課題である。



視察先の状況写真

◇ 最後に

宇和島市の空き家対策については、空き家率が20%を超え、深刻な状況にもなっています。みんなで将来に引き継いでいこうという意識も素晴らしく、まちづくりの一環とした、子ども夢事業・景観形成の進め方、大変勉強になりました。

いずれの視察地においても、活発な質疑応答も出来、大変有意義な視察であった事を申し添えて、報告を終わります。